

私たちの町の遺跡

大名墓物語 細川家の人々

■第5話 お殿様に感謝！

熊本細川藩初代の殿様忠利。妙解寺（みょうげじ）跡にある彼の墓の周囲には、家来たちが供養のために奉納した石灯籠が立っています。

その数64基。いずれも高さ2mを超える立派なものです。一人の殿様の墓にこれほどの数の石灯籠が奉納された例は九州内にはありません。將軍家光の相談役で、細川家と親しかった沢庵和尚が「あまりに多くの灯籠なので『驕っている』と幕府が思うのではないか」という心配の手紙を2代光尚宛てに送ったほどです。

そのなかで、陳（ちん）佐左衛門という、ちょっと珍しい名前の家来が奉納した灯籠の石材に注目します。他の灯籠は殆どが地元の金峰山で採れる石材なのに対し、佐左衛門の灯籠は北部九州などで採れる花崗岩（御影石）なのです。花崗岩は光沢のある硬い石材で、当時は高級品でした。遠隔地の石材ですから注文の手間や輸送費もかかったはず。わざわざ、そんな石材にした理由は…。

陳佐左衛門。実は島原の乱で天草四郎を討ち取った人です。その武功は第一とされ、それまで足軽クラスだったのが、忠利によって、一気に千石取りの鉄砲頭に引き上げられました。自分を上級武士にしてくれた殿様。佐左衛門は、その感謝の心を灯籠の石材に表わしたのでしよう。

平社員からいきなり部長職への大抜擢に対しての感謝の気持ちをお影石で表したんだモン



今で言うなら…
熊本市文化振興課 美濃口雅朗氏

